

2.「日本語教育の参照枠」を活用した 日本語教育コースデザイン

令和5年度 文化庁日本語教育大会 オンラインワークショップ

担当講師: 関崎友愛 (日本語サービスYOU&I)



この時間のねらい

Can do③ 参照枠を活用したコースデザインに必要な視点を理解する

Can do④ 「生活Cando」を理解する

Can do⑤ コースデザインの具体的な手順・方法を理解する

1. 日本語教育の参照枠を活用したコースデザインの 重要な視点（考え方）

日本語教育の参照枠における言語教育観

1 日本語学習者を社会的存在として捉える

学習者は、単に「言語を学ぶ者」ではなく、「新たに学んだ言語を用いて社会に参加し、より良い人生を歩もうとする社会的存在」である。言語の習得は、それ自体が目的ではなく、より深く社会に参加し、より多くの場面で自分らしさを発揮できるようになるための手段である。

社会参加

自己表現

2 言語を使って「できること」に注目する

社会の中で日本語学習者が自身の言語能力をより生かしていくために、言語知識を持っていることよりも、その知識を使って何ができるかに注目する。

Can do
ベース

3 多様な日本語使用を尊重する²

各人にとって必要な言語活動が何か、その活動をどの程度遂行できることが必要か等、目標設定を個別に行うことを重視する。母語話者が使用する日本語の在り方を必ずしも学ぶべき規範、最終的なゴールとはしない。

多様性

(1) 社会的存在

言語使用者・言語学習者＝社会的に行動する者

社会の成員として求められる課題を遂行・完成させる者

課題＝解決が必要な問題、果たすべき義務、達成すべき目的など

例えば【生活分野：子育てをする外国人保護者】の場合

社会的行動：

社会の中で子供を育てる・子育てに必要な支援を受ける・
育児の困りごとを適切な場所に相談する・
教員や他の保護者と良好な人間関係を築く など

(2)「できること」に注目する(行動中心・課題遂行)

言語知識の獲得だけにとどまらず、「言語を使って何ができるか」に注目する

→社会の中で取り組まなければならない言語課題は何か？

→そのために必要な日本語でのコミュニケーションは何か？

例えば【生活分野:子育てをする外国人保護者】の場合

言語課題:

子育てに必要な情報を得る／子育てに関する希望を伝える／申請や手続きなど不明なことについて行政職員に尋ねる／子育ての困りごとを相談する／子供を地域の様々な場所で遊ばせる／教員と意見交換する／他の保護者と雑談をする／わからないことがあったときに周囲の人に尋ねる など

コースデザインの出発点は 「社会的行動の予測」

分野・教育機関・プロフィールごとに
異なるコースとなる

個人や集団の社会的文脈を踏まえた
多様で創造的な言語教育となる

2. 「生活Cando」とは

「生活Can do」について

生活Can do

「生活Can do」は、国内に在住する外国人（「生活者としての外国人」）が日常生活において、日本語で行うことが想定される言語活動を例示したもの。

「日本語教育の参照枠」に示された分野別の言語能力記述文（Can do）の一つ。

対象となる 範囲

「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案について」（平成22年5月、文化審議会国語分科会）に示される「生活上の行為の事例」

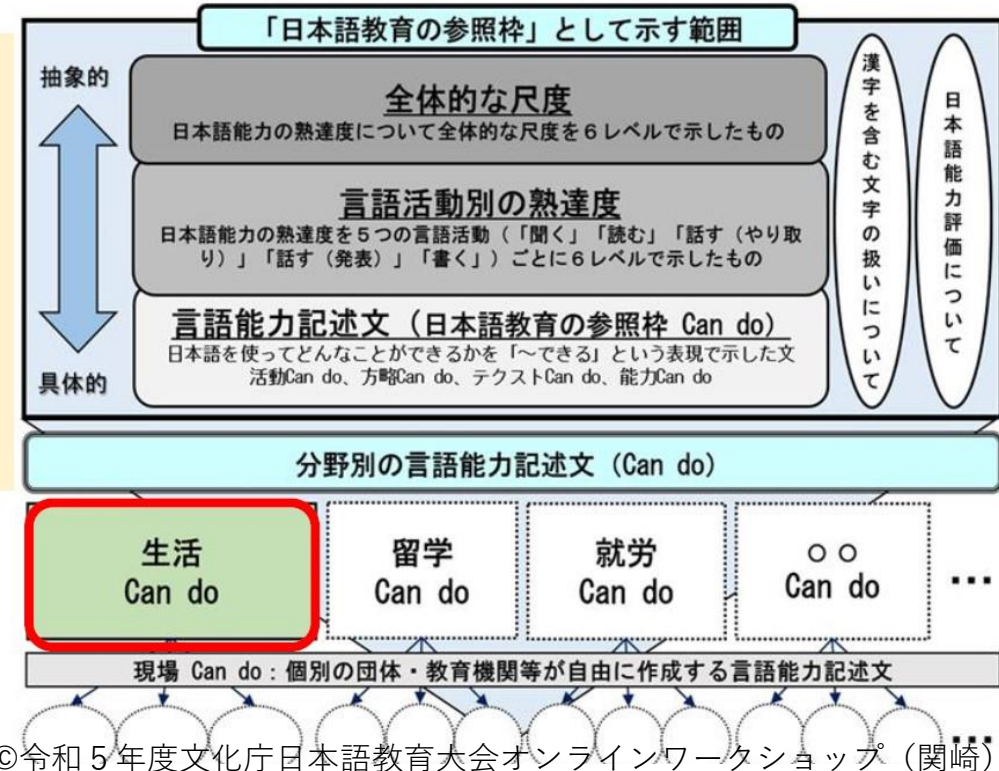
生活上の行為の事例	I 健康・安全に暮らす	VI 働く
	II 住居を確保・維持する	VII 人とかかわる
	III 消費活動を行う	VIII 社会の一員となる
	IV 目的地に移動する	IX 自身を豊かにする
	V 子育て・教育を行う	X 情報を収集・発信する

レベル

A1～B2

言語活動

聞くこと、読むこと、やり取り、発表、書くこと



生活上の行為の事例（令和３年度改定）

出典：「地域における日本語教育の在り方について」（報告）（令和４年１１月２９日）p79

大分類	中分類	小分類	
Ⅰ 健康・安全に暮らす	01 健康を保つ	(1)	医療機関で治療を受ける
		(2)	薬を利用する
		(3)	健康に気を付ける
	02 安全を守る	(4)	事故に備え、対応する
		(5)	災害に備え、対応する
Ⅱ 住居を確保・維持する	03 住居を確保する	(6)	住居を確保する
	04 住環境を整える	(7)	住居を管理する
Ⅲ 消費活動を行う	05 物品購入・サービスを利用する	(8)	物品購入・サービスを利用する
	06 お金を管理する	(9)	金融機関を利用する
Ⅳ 目的地に移動する	07 公共交通機関を利用する	(10)	電車、バス、飛行機、船等を利用する
		(11)	タクシーを利用する
	08 自力で移動する	(12)	徒歩で移動する
		(13)	自転車を利用する
		(14)	車・オートバイ等を使用する
Ⅴ 子育て・教育を行う	09 家庭及び地域で子育てをする	(15)	出産に備える
		(16)	出産し育児をする
		(17)	家庭で子供を育てる
		(18)	地域で子供を育てる
	10 子供に教育を受けさせる	(19)	幼稚園・保育所で教育・保育を受けさせる
		(20)	小・中・高等学校で教育を受けさせる
		(21)	特別支援教育を受けさせる

VI 働く	I 1 仕事を探す	(22)	就職活動をする
		(23)	労働条件について理解する
	I 2 仕事をする	(24)	職場の安全を確保する
		(25)	個別業務を遂行する
		(26)	協働業務を遂行する
		(27)	勤務評価に対応する
	I 3 仕事に役立つ能力を高める	(28)	職業能力の開発を行う
		(29)	事務機器等を利用する
		(30)	職場の人間関係を円滑にする
VII 人とかかわる	I 4 他者との関係を円滑にする	(31)	人と付き合う
		(32)	異文化を理解する
VIII 社会の一員となる	I 5 地域・社会のルール・マナーを守る	(33)	住民としての手続をする
		(34)	住民としてのマナーを守る
	I 6 地域社会に参加する	(35)	地域社会に参加する
	I 7 社会制度を利用する	(36)	福祉等のサービスを利用する
		(37)	社会保険を利用する
IX 自身を豊かにする	I 8 人生設計をする	(38)	生活設計をする
	I 9 学習する	(39)	学習する
		(40)	学習を管理する
		(41)	学習方法を身に付ける
		(42)	日本語を学習する
		(43)	日本について理解する
	I 20 余暇を楽しむ	(44)	余暇を楽しむ
X 情報を収集・発信する	I 21 通信する	(45)	郵便・宅配便を利用する
		(46)	インターネットを利用する
		(47)	電話等を利用する
	I 22 マスメディアを利用する	(48)	マスメディア等を利用する

【参考】生活上の行為の大分類別の「生活 Can do」(案)項目数

生活上の行為の大分類	生活 Can do (案)		
	Can do の数	小分類数	小分類あたりの Can do 数の平均
I 健康・安全に暮らす	76	5	15.2
II 住居を確保・維持する	30	2	15.0
III 消費活動を行う	49	2	24.5
IV 目的地に移動する	43	5	8.6
V 子育て・教育を行う	155	7	22.1
VI 働く	149	9	16.6
VII 人と関わる	61	2	30.5
VIII 社会の一員となる	83	5	16.6
IX 自身を豊かにする	92	7	13.1
X 情報を収集・発信する	51	4	12.8
合計	789 ※	48	16.4

※最終調整を経てCan do数は計785となった（令和5年3月末）

出典：「地域における日本語教育の在り方について」（報告）（令和4年11月29日）p81

©令和5年度文化庁日本語教育大会オンラインワークショップ（関崎）

聞くこと	広報・アナウンスや指示を聞くこと／音声メディアや録音を聞くこと／テレビや映画を見ること／聴衆の一人として生で聞くこと
読むこと	通信文を読むこと／情報や議論を読むこと／世情を把握するために読むこと／説明書を読むこと
やり取り	情報の交換／製品やサービスを得るための取引／目的達成のための共同作業／公式の議論とミーティング／非公式の議論（友人との）／会話／インタビューすること、インタビューを受けること
発表	長く一人で話す：経験談／聴衆の前での講演／公共アナウンス／長く一人で話す：論拠を述べること
書くこと	記録、メッセージ、書式／創作／レポートやエッセイ／通信

①言語活動

「聞くこと」「読むこと」「やり取り（話すこと）」「発表（話すこと）」「書くこと」の5種類

②カテゴリー

5つの言語活動ごとの主な活動例の分類

【生活 Can-do 一覧による提示の例】

No.	言語活動	カテゴリー	レベル	Can-do	生活上の行為の事例				
					大分類	中分類	小分類	事例 1	事例 2
1	読むこと	世情を把握するために読むこと	B1	適切な医療機関を選ぶために、病院のサイトなどの、ある程度長い文章に目を通して、診療科目や診療内容など、必要な情報を探し出すことができる。	I 健康・安全に暮らす	01健康を保つ	(O1) 医療機関で治療を受ける	適切な医療機関の選択をする	選択する病院を知る
2	発表	長く一人で話す：経験談	B1	体調が悪く、医療相談窓口で電話したときに、相談員に自分の症状や症状の変化について、順序だてて説明することができる。	I 健康・安全に暮らす	01健康を保つ	(O1) 医療機関で治療を受ける	適切な医療機関の選択をする	症状の変化を説明する
3	読むこと	世情を把握		健康診断や定期検診などで指定された病院のウェブサイトにアクセスし、診察日や時間を確認することができる。	I 健康・安全に暮らす	01健康を保つ	(O1) 医療機関で治療を受ける	適切な医療機関の選択をする	開院時間を確認する
4	やり取り	やり取りをする		歯医者や歯医者の予約をするとき、ゆっくりと話されれば、名前や電話番号、理由など病院のスタッフの質問に答えることができる。	I 健康・安全に暮らす	01健康を保つ	(O1) 医療機関で治療を受ける	適切な医療機関の選択をする	予約を申し込む

③レベル

「日本語教育の参照枠」の日本語能力の熟達度を示すレベル A1、A2、B1、B2（B2は一部のみ。）

④生活上の行為の事例

大分類・中分類・小分類・事例1（上位項目）・事例2（下位項目）

「参照枠Can do」と「生活Can do」の違い

抽象的



具体的

参照枠Can do (CEFR Cando)

当人に向かって、丁寧にゆっくりと話された指示なら理解できる。短い簡単な説明なら理解できる。

(CEFR030 A1 聞く(広報・アナウンスや指示を聞くこと))



必要な情報を見つけるために長いテキストにざっと目を通し、テキストのさまざまな部分や別のテキストから、特定の課題遂行のための情報を収集できる。

(CEFR053 B1 読む(世情を把握するために読むこと))

生活Can do

学校や職場などで地震発生時に避難するため、ゆっくりとはっきりと話されれば、「気を付けてください」「走らないでください」など、ごく簡単なアナウンスを聞いて、理解することができる。

(生活Cando62 A1 聞く(広報・アナウンスや指示を聞くこと))

いくつかのメーカーの商品を比較する雑誌やウェブサイトなどの簡単な記事に目を通して、それぞれの特徴など、どれを買うか決めるために必要な情報を探し出すことができる。

(生活Cando146 B1 読む(世情を把握するために読むこと))

活動Candoの要素

活動Can do = 条件 + 話題・場面 + 対象 + 行動

出典：『JF日本語教育スタンダード【新版】利用者のためのガイドブック』p16

発音がはっきりしていれば

条件

地域の公民館や体育館などの受付で

話題・場面

職員による施設の予約や利用の方法、
活動を行っているグループへの参加方法などの
説明や指示を

対象

聞いて、理解することができる。

行動

(生活Cando138)

生活Candoの利用者と参照目的

① 地域日本語教育コーディネーター、日本語教師、学習支援者

- ・カリキュラムやコースをデザインするため。
- ・学習活動を設計するため。
- ・日本語学習者が生活場面で必要となる言語行動を具体的に把握するため。

② 日本語学習者

- ・今自分が日本語でどのようなことができるのかを把握するため。
- ・日本語学習の際の目標を設定するため。
- ・学んだことをどのくらいできるようになったのかを把握するため。

③ 行政担当者

地域に在住する外国人等が、日常生活でどのようなことを日本語で行うことが求められているのかを具体的に把握し、地域の多文化共生に関する施策立案（目的・対象別の日本語教室、通訳者・翻訳者、生活ガイダンス講座等の設置など）に生かすため。

④ 学習者の周りの人々

日本語を学んでいる人が、今、どのようなことを学んでいるのかを具体的に把握し、日本語でできること、できないことを意識し、会話などを調整しながらコミュニケーションを進めていくため。

出典：「地域における日本語教育の在り方について」（報告）（令和4年11月29日）p82

利用にあたっての留意事項

- ① **あくまでも例示**である。
 - * 具体的な提示に努めたものの、網羅的なものではない。
 - * 適切な項目がない場合は、新たなCan doを作成してもよい。
- ② どのような項目を扱うかは、**状況に応じた判断**が必要である。
 - * 日本語でできるようにならないといけない行為の一覧ではない。
 - * 防災や医療等、安全や生命に関連する項目については多言語による情報提供が望ましい項目も含まれている。
- ③ 「生活 Can do」を活用した学びは、**多様な学びの一部**である。
 - * 日本語学習はCan doで示した言語活動のみで進められるものではない。
 - * 異文化に対する気付きなど、ポートフォリオを活用した振り返り活動を通して促進される学びもある。

3. 参照枠を活用したコースデザインの方法

バックワード・デザイン（逆向き設計）の考え方

目標

(1) 学習目標を設定する

評価

(2) 学習目標を達成したことを測る
効果的な評価方法を決める

授業内容・方法

(3) 学習目標が達成できるようになるための
授業内容や方法を考えて
カリキュラム全体を設計する

【生活分野：子育てをする保護者】を例に
具体的なコースデザインの方法を考える

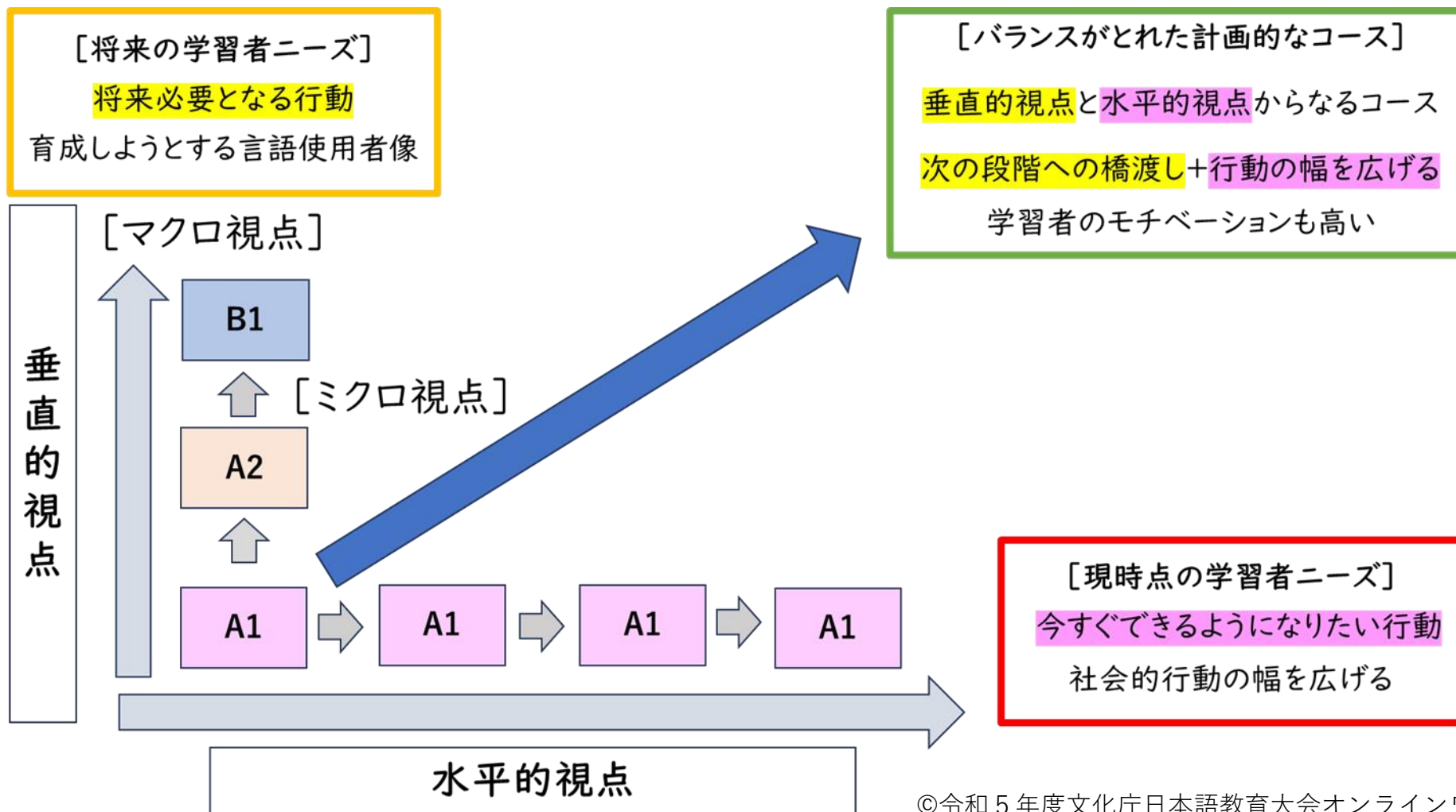
(1) 学習目標を設定する

【目標とする現実社会の具体的な言語課題の設定】

- 今すぐできるようにになりたい言語課題は何か。
 - ・子育てに関する情報（乳幼児健診や予防接種など）を理解できる
 - ・わからないことについて周囲に質問できる
 - ・育児に関する困りごとについて周囲に支援を求めることができる
- 将来必要となる言語課題は何か。
 - ・他の保護者と良好な人間関係を築く
 - ・園や学校の教員と子どもについて意見を交換することができる
- どのような言語使用者を育成するのか。
 - ・社会から孤立することなく、自国で子育てをするのと同様に、地域社会の中で他者との関わりを持ちながら自分らしい子育てをする

垂直的視点と水平的視点を取り入れたコースデザイン

- ▶ 長期にわたり生活、留学、就労を行う人には垂直的視点も重要。
- ▶ 将来や次の段階を見据えた計画的なコースデザインを行う。



将来の学習者のニーズ・成長イメージ



(1) ①コース目標の設定

【言語活動別の熟達度（自己評価表）】

4 言語活動別の熟達度

段階	レベル	理解すること		話すこと		書くこと	
		聞くこと	読むこと	やり取り	発表	書くこと	書くこと
熟達した言語使用者	C2	生であれ放送されたものであれ、自然な速さで話されても、その話し方の癖に慣れる時間の余裕があれば、どんな種類の話し言葉も、難なく理解できる。	抽象的、構造的にも言語的にも複雑な、例えばマニュアルや専門の記事、文学作品のテキストなど、事実上あらゆる形式で書かれた言葉を容易に読むことができる。	慣用表現、口語表現をよく知っていて、いかなる会話や議論でも努力しなくて加わることができる。	状況にあった文法で、はっきりとすらすりと流暢に記述や論述ができる。	明瞭な、流暢な文章を適切な文法で書くことができる。	効果的な論理構造で事情を説明し、その重要な点を読み手に気付かせ、記憶にとどめさせるように、複雑な内容の手紙、レポート、記事を書くことができる。
	C1	たとえ構成がはっきりとなく、関係性が暗示されているに過ぎず、明示的でない場合でも、長い話が理解できる。	長い複雑な事実に基づくテキストや文学作品の、文法の違いを認識しながら理解できる。	自分の考えや意見を正確に表現でき、自分の発言を上手に他の話し手の発言に合わせるができる。	複雑な話題を、派生の話題にも立ち入って詳しく論述することができ、一定の観点を展開しながら、適切な結論でまとめ上げることができる。	適当な長さで幾つかの視点を示して、明瞭な構成で自己表現ができる。	自分が重要だと思う点を強調しながら、手紙やエッセイ、レポートで複雑な主題を扱うことができる。
自しした言語使用者	B2	長い会話や議論を理解することができる。	筆者の姿勢や視点が現れる現代の問題についての記事や報告が読める。	流暢に自然に会話をすることができ、熟達した日本語者と普通にやり取りができる。	自分の興味関心のある分野に関連する限り、幅広い話題について、明瞭で詳細な説明をすることができる。	興味関心のある分野内なら、幅広いいろいろな話題について、明瞭で詳細な説明文を書くことができる。	エッセイやレポートで情報を伝え、一定の視点に対する支持や反対の理由を書くことができる。
	B1	仕事、学校、娯楽でふだん出会うような身近な話題について、明瞭で共通語による話し方の会話なら要点を理解することができる。	非常によく使われる日常会話や、自分の仕事関連の言葉で書かれたテキストなら理解できる。	当該言語圏の旅行中に最も起こりやすい大抵の状況に対処することができる。	簡単な方法で語句をつないで、自分の経験や出来事、夢や希望、野心を語ることができる。	身近で個人的に関心のある話題について、つながりのあるテキストを書くことができる。	私生活で経験や印象を書くことができる。
	A2	話し方が比較的ゆっくり、はっきりとしているなら、時事問題や、個人的な若しくは仕事上の話題についても、ラジオやテレビ番組の要点を理解することができる。	ごく基本的な個人や家族の情報、買い物、近所、仕事などの直接自分につながるものがある領域で最も頻繁に使われる言葉や表現を理解することができる。	単純な日常の仕事の中で、情報の直接のやり取りが必要ならば、身近な話題や活動について話合することができる。	家族、周囲の人々、居住条件、学歴、職業を簡単な言葉で一連の語句や文を使って説明できる。	直接必要のある領域での事柄なら簡単に短いメモやメッセージを書くことができる。	短い個人的な手紙など書くことができる。
基礎段階の言語使用者	A1	はっきりとゆっくり話してもらえば、自分、家族、すぐ周りの具体的なものに関する聞き慣れた語句やごく基本的な表現を聞き取れる。	例えば、掲示やポスター、カタログの中によく知っている名前、単語、単純な文を理解できる。	相手のやり取りし、繰り返したり、言い換えたりしてくれて、また自分が言いたいことを表現するのに助け船を出してくれるなら、簡単なやり取りをすることができる。	どこに住んでいるか、また、知っている人たちについて、簡単な語句や文を使って表現できる。	新年の挨拶など短い簡単な文章を書くことができる。	例えばホテルの宿帳に名前、国籍や住所といった個人のデータを書き込むことができる。

○「日本語教育の参照枠」では、言語活動別の熟達度について、CEFRに掲載されている「共通参照レベル：自己評価表」に準じたレベル及び言語能力記述文を設定する。
レベルと言語活動の軸は「日本語教育の参照枠」：全体的な尺度に合わせて転換した。翻訳については、CEFR日本語版（2014年追補版）の訳文を基にし、CEFR補遺版を参考に一部修正を加えた。

コース目標：

子育ての場面で自分に直接的な関係がある、よく使われる語彙や表現が理解できる。子育てをする中で身近で日常の事柄についての情報交換に応じることができる。(A2)

【3分野ごとの言語活動別の目標】

3分野ごとの言語活動別の目標

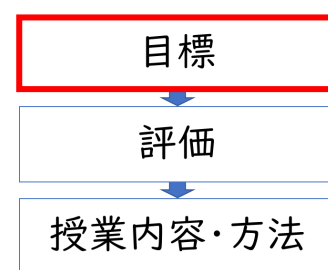
資料6

レベル		学習時間 ^{※1}	生活分野における言語活動ごとの目標 ^{※2}					
			言語活動共通					
			聞くこと	読むこと	話すこと (会話)	話すこと (発表)	書くこと	
必須の設定レベル	A1	100～150時間 134～200 単位時間	具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることもできる。自分や家族などを紹介することができ、どこに住んでいるか、誰と知り合い、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助け船を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。	はつきりとゆっくり話してもらえれば、自分や家族など身近で具体的なものに聞ける聞き慣れたごく基本的な表現を聞き取れる。	掲示やポスター、役所や学校からのお知らせの中のよく知っている名前、単語、単純な文を理解できる。	相手がゆっくり話し、また助け船を出してくれるなら、身近な話題についてのごく簡単な質問について、聞いたり答えたりできる。	どこに住んでいるか、また、知っている人たちに、ごく簡単な言葉や文を使って話すことができる。	新年の挨拶などの短い簡単なメッセージや名前や住所などを書くことができる。
	A2	100～150時間 134～200 単位時間	よく基本的な個人情報や家族情報、買い物、居住地域、職業など、直接的関係がある領域に関する、よく使われる文や表現が理解できる。簡単に日常的な範囲なら、身近で日常の事柄についての情報交換に応じることができる。自分の背景や身の回りの状況や、直接的な必要性のある領域の事柄を簡単な言葉で説明できる。	自分や家族など身近な話題でよく使われる語彙や表現を理解することができる。短いはっきりとした簡単なメッセージやアナウンスの要点を聞き取れる。	掲示やポスター、役所や学校からのお知らせの中の短い簡単な文なら理解できる。簡単に短い個人的な手紙は理解できる。	身近な話題や活動についての短い簡単なやり取りができる。短い社会的なやり取りをすることができる。	家族、周囲の人々、居住地域などの身近な話題について、短い簡単な文を使って説明できる。	身近な事柄なら短いメモやメッセージを書くことができる。ごく簡単な個人的な手紙を書くことができる。
	B1	150～220時間 200～294 単位時間	日常生活で遭遇するような身近な話題について、共通語による話し方であれば、主要点を理解できる。日常生活で起こりそうな、大抵の事態に対処することができる。身近で個人的にも関心のある話題について、単純な方法で結び付けられた、脈絡のある文章を作ることができる。経験、出来事、夢、希望などを説明し、意見や計画の理由、説明を短く述べることができる。	日常生活における共通語での会話なら要点を理解することができる。ゆっくり、はっきりとしているなら、ラジオやテレビ番組の要点を理解することができる。	身近な話題や個人的に関心がある内容の文章なら理解できる。出来事、感情、希望が表現されている文章を理解できる。	日常生活において起こる大抵の状況に対応できる。日常生活に起こることや個人的な関心事について、準備なしで会話に入ることができる。	経験や出来事、将来の夢や希望などを簡潔に語ることができる。意見や計画に対する理由や説明を簡潔に話すことができる。本や映画のあらすじを話し、感想や考えを発表できる。	身近で個人的に関心のある話題について、まとまりのある文章を書くことができる。経験や印象について書くことができる。
総学習時間 総単位時間		350～520時間 468～694単位時間						

【※1】1単位時間は45分。「地域における日本語教育の在り方について（報告）」p.64において示された学習時間の考え方で示された学習時間数。

【※2】各レベルの目標は「日本語教育の参照枠（報告）」p.23-48「言語活動別の熟達度」「活動Can-do一覧」を参考に作成。

(1) ②各ユニット・各授業の学習目標の設定



【シラバスデザイン】

コース名： 子育ての日本語

対象者： 乳幼児を育てる保護者

コース目標：

子育ての場面で自分に直接的な関係がある、よく使われる語彙や表現が理解できる。子育てをする中で身近で日常の事柄についての情報交換に応じることができる。
(A2)

「生活Cando」は生活上の行為（状況・場面・行為）が具体的に示されているため、シラバス設計にも役立つ

シラバス：

ユニット1	乳児健診を受けよう
ユニット2	児童館に行こう
ユニット3	公園に行こう
ユニット4	子育てイベントに参加しよう
ユニット5	入園面接
ユニット6	子どもの病気
ユニット7	保育園／幼稚園の生活
ユニット8	保育園／幼稚園の行事
ユニット9	園の先生と話そう
ユニット10	他のお母さんお父さんと話そう

(1) ②各ユニット・各授業の学習目標の設定

目標

評価

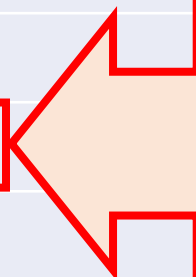
授業内容・方法

ユニット6：子どもの病気

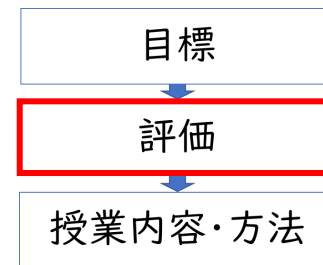
ユニット6の学習目標:子どもが病気になったとき、保育園や幼稚園と必要なやり取りをすることができる(A2)

授業① (45分～)	子供の発熱や体調不良などで、保育園や幼稚園の先生からの電話によるお迎えを要請する簡単な説明や指示を聞いて、理解することができる (生活Cando 290)【聞く】
授業② (45分～)	保育園や幼稚園からくる短い簡単なメールなどを読んで、行事の中止や延期、学級閉鎖の期間や該当クラスなど、必要な情報を探し出すことができる (生活Cando 289)【読む】
授業③ (45分～)	保育園や幼稚園などの連絡帳(又は連絡アプリの該当する箇所)に、子供の体調について心配なことや、お迎えの人や時間の変更などを、短い簡単な文で書くことができる (生活Cando 286)【書く】
授業④ (45分～)	子供が体調不良のときに、どんな対処法を取っているかなどについて、友人に質問したり、答えたりすることができる (生活Cando 232)【話す(やり取り)】

ユニット1	乳児健診を受けよう
ユニット2	児童館に行こう
ユニット3	公園に行こう
ユニット4	子育てイベントに参加しよう
ユニット5	入園面接
ユニット6	子どもの病気
ユニット7	保育園／幼稚園の生活
ユニット8	保育園／幼稚園の行事
ユニット9	園の先生と話そう
ユニット10	他のお母さんお父さんと話そう



(2) 評価方法を考える



【「日本語教育の参照枠」における評価の三つの理念】

1 生涯にわたる自律的な学習の促進

「日本語教育の参照枠」における評価は、生涯にわたる自律的な学習の促進²⁸を目的とする。

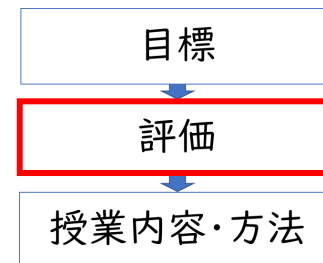
2 学習の目的に応じた多様な評価手法の提示と活用推進

「日本語教育の参照枠」では、日本語を使用して、何が、どのように、どれくらいできるのかを言語能力記述文等を用いて具体的に示すとともに、それがどの程度達成できたかを把握するために、多様な評価手法を提示し、その活用を後押ししていくための考え方や事例を示す。

3 評価基準と評価手法の透明性の確保

日本語学習者、教師ばかりでなく、一般の日本人等にとっても参照しやすい、日本語で「できること」に注目した評価基準を示し、その評価手法の透明性を確保することを通して、日本語教育に関わる全ての者の間で評価に関する共通認識を醸成する。これにより、日本語学習者がいつ、どこにいても、一貫した学びを継続できる環境の整備を目指す。

(2) 評価方法を考える



【**評価タスク**の決定】: どのようなパフォーマンスで評価するのか?

授業① (45分～)	子供の発熱や体調不良などで、保育園や幼稚園の先生からの電話によるお迎えを要請する簡単な説明や指示を聞いて、理解することができる (生活Cando 290)【聞く】
授業② (45分～)	保育園や幼稚園からくる短い簡単なメールなどを読んで、行事の中止や延期、学級閉鎖の期間や該当クラスなど、必要な情報を探し出すことができる (生活Cando 289)【読む】
授業③ (45分～)	保育園や幼稚園などの連絡帳(又は連絡アプリの該当する箇所)に、子供の体調について心配なことや、お迎えの人や時間の変更などを、短い簡単な文で書くことができる (生活Cando 286)【書く】
授業④ (45分～)	子供が体調不良のときに、どんな対処法を取っているかなどについて、友人に質問したり、答えたりすることができる (生活Cando 232)【話す(やり取り)】

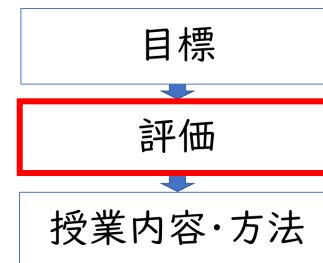
タスク① ロールプレイ【聞く】

→ 子どもが通っている保育園／幼稚園の先生から電話がかかってきました。先生と話してください。

タスク② メモを書く／スマホアプリに入力する【書く】

→ 子どもは昨日まで風邪で欠席していました。今日の体調の心配なことについて、先生にメモを書いてください。

(2) 評価方法を考える



【評価基準の検討】・・・どのような観点で評価するのか？

活動 Can do	言語活動についての言語能力記述文
	「聞く」、「読む」、「話す（やり取り）」、「話す（発表）」、「書く」の五つの言語活動ごとに「広報・アナウンスや指示を聞くこと」、「説明書を読むこと」、「情報の交換」、「長く一人で話す：経験談」、「通信」などのカテゴリーを設けている。
方略 Can do	言語使用の際のストラテジーについての言語能力記述文
	方略とは、 <u>分からない言葉を推測したり、質問したり、あるいは聞き取りにくい言葉について聞き返したりするなどの行動を指す。</u> C E F Rでは、「モニタリングと修正」、「手掛かりの発見と推論（話し言葉と書き言葉）」、「発言権の取得・保持」、「説明を求めること」などのカテゴリーがある。
テキスト Can do	一まとまりの表現を扱うことについての言語能力記述文
	話し言葉、書き言葉についての一まとまりの表現を扱う能力（要約、言い換え、書き写し）を示した言語能力記述文。「ノート取り（講義やセミナー）」、「テキストの処理」というカテゴリーを設けている。
能力 Can do	言語能力、社会言語能力、言語運用能力についての言語能力記述文
	「 <u>使用語彙領域</u> 」、「文法的正確さ」、「音素の把握」、「 <u>正書法の把握</u> 」、「 <u>社会言語能力</u> 」、「発言権」、「話題の展開」、「話し言葉の流ちょうさ」、「 <u>叙述の正確さ</u> 」などのカテゴリーを設けている。

①子供の体調不良による、保育園や幼稚園の先生からの電話によるお迎えを要請する簡単な指示を理解することができる(A2聞く)

→上記活動Candoのほか、方略Candoも
評価の観点となる

②保育園や幼稚園などの連絡帳に、子供の体調で心配なことについて、短い簡単な文で書くことができる(A2書く)

→上記活動Candoのほか、能力Candoも
評価の観点となる

パフォーマンスの質的側面も
評価の観点に取り入れることが大切

自己評価の例

【評価タスク】

ユニット6 「子どもの 病気」

タスク① ロールプレイ

子どもが 通っている 園の先生から
電話が かかってきました。
先生と 話してください。

タスク② 書く／スマホアプリに入力 する

子どもは 昨日まで 風邪で 欠席し
ていました。
今日の 体調の 心配なことについて
先生にメモを書いてください。

ユニット6 Candoチェック (できましたか?)

□に【×できなかった △もう少し ○できた ◎よくできた】を書きましょう

タスク①

園の先生から電話がかかってきた時

簡単な指示を理解することができましたか？

タスク②

子供の体調の心配な点について、園の先生に

短い簡単な文でメモを書くことができましたか？

多様な評価方法

自己評価シート

パフォーマンス評価：プレゼンテーション ション

【Cando チェック】 ×:できなかった △:もう少し ○:できた ◎:よくできた

		B1.2	B2.1	目標レベル！
言語活動	プレゼンテーション	自分がよく知っている話題について、事前に準備した簡単なプレゼンテーションができた。 要点をまあまあ正確に述べることができた。	自分がよく知っている話題に関連した幅広い話題について、明確で詳しいプレゼンテーションができた。 説明を補足しながら、関連する例を挙げて、主張を強化し、展開することができた。	
	質疑応答	質問に何とか対応できた。 (質問者の話すスピードが速い場合や質問がわかりにくい時は、もう一度繰り返しを頼むこともある)	質問に対して、しっかりと正確に答えることができた。 リクエストに流暢に自然に対応できた。	
言語能力	語彙	まあまあ正確に考えや問題の主要点を説明できる語彙力を持っている。抽象的な内容や文化的な内容についても、考えを述べるができる。	言葉を探していることをそれほど感じさせないで、明確に詳細に説明でき、自分の視点がはっきりと表明できる語彙力を持っている。	
	文法	述べようとしていることは明らかに分かるくらいの正確さはあるが、母語からの影響による間違いは時々ある。	高い文法能力が見られる。複雑な構造の文を使うことができる。聴衆が誤解するような間違いはない。	

【感想(プレゼンテーションをして感じたことを自由に書いてください)】

ルーブリック【コミュニケーション Step2 (B2.2)】 (詳細については第3章2. 参照)							
レベル: Step2(B2.2)							
科目: 発信表現 (発表) スキル: 話すこと (発表) + 書くこと							
科目 (発信表現 B2.2・発表) の Can Do: 留学生としての教養範囲の、あまり複雑でない社会的・文化的なテーマについて、聴衆を意識しつつ、聞き手に伝わる口頭発表ができる。							
この活動の Can Do: 世界的に課題となっているテーマ (たとえば、気候変動、食糧、水の問題等) について、予備知識のない聞き手にも伝わるように視覚情報を使って具体的にわかりやすく発表することができる。							
パフォーマンス・タスク: 地域の小学校との交流活動で、4年生の児童30人に「気候変動を防ぐために、私の国・地域でやっていること」というテーマで話をしてほしいという依頼がありました。スライドと発表原稿を作成し、10分程度でわかりやすく話してください。							
評価方法: 活動前にルーブリック提示、活動後に自己評価、ピア評価、教師評価を行い、点数化。聞き手である小学生にも別のルーブリック (非公開) で評価してもらう。							
評価尺度の意味: S=到達目標を超え、更に+αの要素を含む、A=到達目標をクリアしている、B=到達目標にやや届かない、C=到達目標に全く届かず、学び直しが必要。							
合計点: S=150~101点、A=100~80点、B=79~60点、C=59~0点 計60点以上で合格。							
Can Do の種類	評価尺度		S (すばらしい！)	A (できた！)	B (あと一歩)	C (もう一度)	得点
	評価観点						
活動: 産出・話すこと (発表)	① 論理性	気候変動の現象・要因・対策の論理的なつながりが、全く予備知識がない人にも十分に伝わるほど明瞭だった。(30点)	気候変動の現象・要因・対策の論理的なつながりが、ほとんど予備知識のない人にもある程度伝わるほど明瞭だった。(20点)	気候変動の現象・要因・対策を述べたが、予備知識があったが見えにくかった。(10点)	気候変動の現象・要因・対策のいずれかを述べなかった。(0点)		
	② 内容の 具体性	自分の国・地域で何をやっているかをさわめて具体的に、はっきりイメージできるように説明できた。(30点)	自分の国・地域で何をやっているかを具体的に説明できた。(20点)	自分の国・地域で何をやっているかを述べたが、ややわかりにくかった。(10点)	自分の国・地域で何をやっているかを全く伝わらなかった。(0点)		
活動: 仲介	③ 対象に合う 身近な例	小学生の生活に即した非常に身近な例を挙げた。(15点)	小学生の生活を意識して、身近な例を挙げた。(10点)	小学生の生活をあまり意識していないが、例を挙げて話した。(5点)	例を挙げないで、抽象的に話した。(0点)		
	④ 対象に合わせた表現	小学4年生が対象であることを明確に意識して語彙・表現を巧みに調整した。(15点)	小学4年生が対象であることを意識して語彙・表現の調整に注意を払った。(10点)	不十分ながらも、小学生向けに語彙・表現を調整しようとして意識している。(5点)	語彙・表現を調整しようとする意識が見られず、大人に話すときと変わらない。(0点)		
方略	⑤ 分かりやすく 伝える工夫	身振りや目的に合った写真やイラスト入りのスライドを使ったり質問をしたりして、聴衆を巻き込む工夫があった。(15点)	写真やイラスト入りのスライドを見せて、伝わる工夫をした。(10点)	写真入りのスライドを見せたが、使い方があまり効果的ではなかった。(5点)	文字だけのスライドを使うなど、伝えるための工夫がなかった。(0点)		
	⑥ 話す前提で書くこと	小学生30人に話すことを明確に意識し、ごく自然に話しかけるようなスタイルの原稿を書けた。(15点)	小学生に話すことを意識し、耳で聞いてわかる原稿を書けた。(10点)	話すことをある程度意識し、耳で聞いて観ねわかる原稿を書けた。(5点)	話すことを意識しておらず、耳で聞いたときに理解しにくい原稿になった。(0点)		
能力	⑦ 音声と流暢さ	日本語らしい自然な音声で、落ち着いた流暢に話すことができ、キーワードは非常に明瞭で、音声で気になるところはほとんどない。(15点)	日本語らしい自然な音声で、落ち着いた流暢に話すことができ、キーワードは明瞭で、音声で気になるところは1,2箇所以内。(10点)	流暢さはないものの、キーワードの伝達に支障のない音声で、気になるミスは数か所。(5点)	たどたどしく、音声に強いクセがあり、キーワードが伝わらない。(0点)		
	⑧ 文法・語彙の正確性	文法・語彙が正確で、未確定な因果関係を客観的に伝える表現 (～ではないかと考えられます等) を正確に使っており、ミスがほとんどない。(15点)	文法・語彙がほぼ正確で、目的を示す表現 (～ために等) を適切に使っており、すべきことと既にやっていることが区別されている。(10点)	文法・語彙がやや不正確で、何がどうしたのか事実関係が十分に伝わらない部分がある。(5点)	文法・語彙のミスが多く、言いたいことが伝わらない。(0点)		
評価尺度ごとの得点合計		／満点	／150点	／100点	／50点	／0点	合計 点

(3) 授業内容や方法を考える

目標

評価

授業内容・方法

【課題達成に必要な語彙・文型・コミュニケーション能力の検討】

ユニット6: 子どもの病気

授業① 子供の発熱や体調不良などで、保育園や幼稚園の先生からの電話によるお迎えを要請する簡単な(45分)説明や指示を聞いて、理解することができる(生活Cando 290)

授業② 保育園や幼稚園からくる短い簡単なメールなどを(45分)読んで、行事の中止や延期、学級閉鎖の期間や該当クラスなど、必要な情報を探し出すことができる(生活Cando 289)

授業③ 保育園や幼稚園などの連絡帳(又は連絡アプリの該当する箇所)に、子供の体調について心配なことや、お迎えの人や時間の変更などを、短い簡単な文で書くことができる(生活Cando 286)

授業④ 子供が体調不良のときに、どんな対処法を取っているかなどについて、友人に質問したり、答えたりすることができる(生活Cando 232)

語彙:

発熱 ○度 お熱がある お熱が出た 顔色が悪い
腹痛 お腹が痛い ぐったりしている 食欲がない
保健室 横になっている お迎え
徒歩 自転車 車で 受診

文型:

熱が37.5度ありますので、お迎えに来ていただけますか？

何時ごろ 来ていただけますか？

どなたが いらっしゃいますか？

熱が続くようなら、受診をお願いします

方略(ストラテジー):

- ・相手の言うことが分からないとき
- ・指示内容を確認するとき

(3) 授業内容や方法を考える

目標

評価

授業内容・方法

【課題達成に必要な知識・能力を身につける教室活動の検討】

ユニット6: 子どもの病気

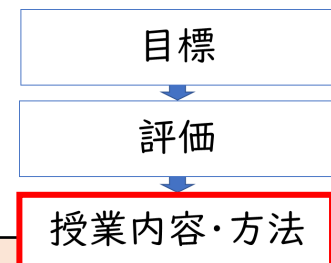
授業① (45分)	子供の発熱や体調不良などで、保育園や幼稚園の先生からの電話によるお迎えを要請する簡単な説明や指示を聞いて、理解することができる(生活Cando 290)
授業② (45分)	保育園や幼稚園からくる短い簡単なメールなどを読んで、行事の中止や延期、学級閉鎖の期間や該当クラスなど、必要な情報を探し出すことができる(生活Cando 289)
授業③ (45分)	保育園や幼稚園などの連絡帳(又は連絡アプリの該当する箇所)に、子供の体調について心配なことや、お迎えの人や時間の変更などを、短い簡単な文で書くことができる(生活Cando 286)
授業④ (45分)	子供が体調不良のときに、どんな対処法を取っているかなどについて、友人に質問したり、答えたりすることができる(生活Cando 232)

- ①アイスブレイク:家族の体調や流行している病気について話す
- ②子供の体調・病気に関する語彙・表現
- ③日本の幼稚園・保育園事情(登園可／不可の条件)
- ④園からのお迎え要請の電話の会話練習

- ①アイスブレイク:学級閉鎖の経験(母国の事情も)について話す
- ②行事の中止、学級閉鎖に関する語彙・表現
- ③学級閉鎖中に気を付けること(日本の生活・文化・社会的情報)
- ④行事の中止に関する連絡を読む
- ⑤学級閉鎖の連絡を読む

(3) 授業内容や方法を考える

【課題達成に必要な知識・能力を身につける教室活動の検討】



ユニット6: 子どもの病気

授業① (45分)	子供の発熱や体調不良などで、保育園や幼稚園の先生からの電話によるお迎えを要請する簡単な説明や指示を聞いて、理解することができる(生活Cando 290)
授業② (45分)	保育園や幼稚園からくる短い簡単なメールなどを読んで、行事の中止や延期、学級閉鎖の期間や該当クラスなど、必要な情報を探し出すことができる(生活Cando 289)
授業③ (45分)	保育園や幼稚園などの連絡帳(又は連絡アプリの該当する箇所)に、子供の体調について心配なことや、お迎えの人や時間の変更などを、短い簡単な文で書くことができる(生活Cando 286)
授業④ (45分)	子供が体調不良のときに、どんな対処法を取っているかなどについて、友人に質問したり、答えたりすることができる(生活Cando 232)

【幼稚園／保育園の保護者をサポート役に迎えて】

- ①アイスブレイク: ゲストの紹介
- ②日本の幼稚園・保育園事情(どんな時に園に連絡する必要があるか)
- ③園との連絡手段の確認→実情に合わせる
- ④子供の体調について心配なこと／お迎えの人や時間の変更を伝える文を書く

現実社会と
つながる活動

【幼稚園の保護者との交流会】

- ①アイスブレイク: 交流会の趣旨説明
- ②「子供が体調不良の時の対処法(市販薬・売っている場所・微熱などの時に家庭でできること・近隣の評判の良い小児科・オンライン予約の取り方・お薬手帳の使い方など)」をテーマにグループで話す(学習支援参加者が「やさしい日本語」で仲介する)
- ③話したこと、知ったこと、感想を共有

現実社会とつながる活動

教室の外とつながる活動
社会参加・自己表現につながる活動

254	やり取り	会話	A2	公園などで会った他の保護者と、普段どこで子供を遊ばせているかや、地域のおすすめの遊び場などについて、短い簡単な言葉で話すことができる。	V 子育て・教育を行う	09 家庭及び地域で子育てをする	(18) 地域で子供を育てる	1802	公園を利用する	1802060	親同士の交流をする
-----	------	----	----	---	----------------	---------------------	-------------------	------	---------	---------	-----------

<プロジェクトワーク> 住んでいる地域にどんな公園があるか、どんな遊び場があるかを調べ、実際に行って写真を撮ってきて、どんな場所か紹介し合う（発表）

<インタビュー活動> 公園や子育て支援センターなどに出向き、子供を遊ばせている日本人保護者に「おすすめの遊び場」についてインタビューをし、得られた情報をワークシートにまとめる

活動を通して学習者が現実社会で関わる人たちとコミュニケーションできるようにコースをデザインすることで、日本語学習が学習者のエンパワメント・社会参加を可能にするものとなる（日本語教育の場が多文化共生の場そのものとなる）

他の関連機関との連携

学習者の受け入れ機関や行政などとの
連携・協力

262	読むこと	世情を把握するために読むこと	B1	保育施設の種類（保育園・幼稚園・認定こども園など）やそれぞれの特徴などについて書かれたある程度長い文章に目を通して、子供を預けるために必要な情報を探し出すことができる。	V 子育て・教育を行う	10 子供に教育を受けさせる	(19) 幼稚園・保育所で教育・保育を受けさせる	1901	託児施設・保育施設を利用する	1901020	施設の種類や制度について知る
-----	------	----------------	----	--	----------------	-------------------	-----------------------------	------	----------------	---------	----------------

連携先の例

<各自治体の保育課など>

外国人保護者向けの保育園入園手続き説明会を共催

<幼稚園>

外国人保護者向けの入園までの流れや手続き、入園条件などについての説明会実施

<国際交流協会など多文化共生に関わる機関>

外国人住民向け多言語ツールを有効活用

日本語教育を行う機関から各関連機関に向けて外国人対応の方法を示したり、コミュニケーションの橋渡し（仲介）をしたり、外国人住民と関わるホスト社会（日本社会）に多文化共生（共創）意識を啓発していくことも日本語教師の重要な役割

この時間のまとめ

コースデザインの出発点＝社会的行動の予測

Can do③ 参照枠を活用したコースデザインに必要な視点を理解する
社会的存在・課題遂行・目標設定を個別に行う（プロフィール）

Can do④ 「生活Cando」を理解する
生活上の行為・参照枠Can doとの抽象度の違い

Can do⑤ コースデザインの具体的な手順・方法を理解する
目標設定→評価方法→教室活動を考える という手順
抽象度の高いCan doから具体的なCan do（現場Can do）を作る
評価タスクの設定と評価基準
社会的文脈を踏まえた創造的な教室活動

参考文献

文化審議会国語分科会(2021)「日本語教育の参照枠(報告)」(令和3年10月12日)

文化審議会国語分科会(2022)「地域における日本語教育の在り方について(報告)」(令和4年11月29日)

文化審議会国語分科会(2022)「日本語教育の参照枠の活用のための手引」(令和4年1月28日)

国際交流基金(2017)『JF日本語教育スタンダード【新版】利用者のためのガイドブック』